

水圧を用いた上顎洞粘膜上皮法上の有用性の検討

Crestal approach sinus floor elevation using hydraulic pressure.

中本花奈り, 金山健夫り, 藤本 純り, 渡部 一夫り,

古賀秀俊り, 村橋正哉り, 朝波惣一郎り

医療法人 天空会 デンタルチームジャパン 〇

医療法人財団順和会山王病院歯科口腔外科〇

《 緒 言 》

近年、歯槽頭アプローチによる上顎洞底平上術に於いて生理食塩水注入による水圧を用いた上顎洞粘膜上皮法上の方法が考案され、幅広い症例に対する有用性が示唆されている。そこで今回我々は、第一大臼歯部に同方法を用いた上顎洞底平上術を行った症例の術直後の洞粘膜の平上状態と1年経過時の骨の増生形態を比較し有用性を検討したので報告する。

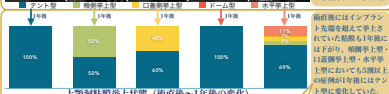
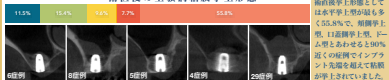
《 対象と方法 》

対象は、2015年7月から2016年7月の間に第一大臼歯部へ歯槽頭アプローチによる上顎洞粘膜上皮法上術を行い、術前、術直後、術後1年経過時のCT撮影を行えた52症例とした。対象形式は、OSSTEM社CAS drillを使ってドリリングを行い、Hydraulic lifterを用いた上顎洞粘膜を剥離・平上。その後、補植材は使用せず、PRFのみを填入しインプラントを同時に埋入した症例とした。上顎洞粘膜上皮法上の評価は、術直後のCTと1年後のCTで行なった。CT冠狀断面での粘膜平上形態を以下の5つに分類し1年後の骨増生形態と比較し評価した。



《 結 果 》

術直後の上顎洞粘膜上皮形態



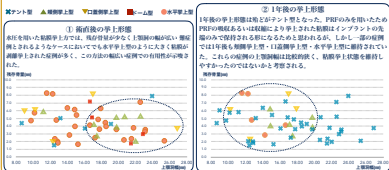
上顎洞粘膜上皮状態 (術直後～1年後の変化)

1年後における粘膜上皮形態の典型的CT像と症例数および発生頻度



《 考 察 》

残存骨量・上顎洞幅と上顎洞粘膜上皮形態について



《 結 論 》

水圧を用いた上顎洞粘膜上皮法は、様々な条件の幅広い症例に対応できる有用な方法である。